

朝日商店 ラバンティー社製最大級の剪断アタッチメントと日立建機製大型油圧ショベルを導入

(大阪)朝日商店(本社=大阪府堺市堺区、松谷明男社長)はこのほど、臨海高石工場の加工処理能力の向上などを目的に、ラバンティー社製の最大クラスとなる剪断アタッチメントとその性能を最大限に引き出すべく、日立建機製の大型油圧ショベルEX1200を導入した。臨海高石工場では府内の金属リサイクル企業において稀有とされるプライベートバースを今年2月に開設しており、処理能力のさらなる向上によって、作業負担の軽減や海上での大型重量物の受け入れ体制の強化につなげていく方針だ。

今回、新たに導入した剪断アタッチメントはラバンティー社が製作した世界では最大級となるMSD9500R(質量21,100kg、開口幅1,220mm)。国内では船舶解体を主力とする金属リサイクル企業が同機を導入しているが、世界でもこのラバンティー社製の最大クラスの剪断アタッチメントの導入事例はごくわずかとされる。厚さ40ミリの鉄板が切断可能なラバンティーシャーのポテンシャルを最大限に引き出すために、日立建機製の大型油圧ショベル1200EXを組み合わせ、加工処理体制にさらなる磨きをかけている。同工場ではかねてよりラバンティー社製MSD3000R(同8,100kg、同890mm)を活用しており、一般的な薄物や鉄筋などの市中老廃スクラップは油圧シャーでの加工処理を手掛け、厚みのある品物については同機やガス切断などに使い分けることで、効率的な作業体制を構築してきた。同社が主力とするプラント解体などから発生する大型重量物は様々な厚みがあり、ラバンティーシャーで処理できないものはガス切断で対応してきた。しかし、ガス切断はスタッフの作業負担が大きいのに加え、一定レベルの技術を習得するまでに期間を要することで、



導入した世界最大クラスのラバンティーシャーと日立建機製EX1200

人手での作業を可能な限り機械化に置き換えるべく、アタッチメントでの剪断能力を飛躍的に高めている。

■海上での受け入れ強化も実現

また、同工場では21年の開設前から構想していた499船の着岸可能なプライベートバースが今年2月に完成している。この自社バースを炉前スクラップの出荷のみならず、加工処理や輸送に手間のかかる大型重量物を中心とした母材を全国各地から海上で受け入れることが開設時の狙いでもあり、現に開設後は母材を海上で定期的に受け入れ、単重で最大110tの大型スクラップの荷役作業と加工処理の実績を持つ。

中長期的に全国の港湾エリアでは老朽化対策に向けたインフラ整備や建物などの解体が進むことが見込まれるなか、そこで発生した大型構造物などを一旦、トレーラーサイズに前処理して陸送で運搬するよりも、台船を用いて海上で輸送した方が効率性に優れ、社会的にもCO₂削減の観点から海上での輸送形態は注目を集めている。また、プライベートバースは公共岸壁と異なり、出入荷に制約を受けにくい利点を持つ。その上で、海上での受け入れ体制を強化していくには、顧客ニーズを満たすための迅速な加工処理体制が不可欠として、プライベートバースの完成前から思い描いていた世界最大クラスの剪断アタッチメントと大型油圧ショベルの導入を実現させた。プライベートバースのすぐ近くに油圧シャーとMSD3000R、MSD9500Rの2基のラバンティーシャーを配備しているのはまさに圧巻であり、万全の加工処理体制を構築した松谷社長は「ガス切断による作業負担の軽減と処理能力向上の両立化を果たせたことは素直に嬉しく、自身が開設当初からイメージしていた臨海高石工場の形がようやく整いつつある。ここからが本当のスタートであり、大型重量物を含めて、どのような母材も受け入れられる工場として、海上での入荷比率を高めていきたい」と力強く語った。